



第50回理事会開催

助成対象に185件を決定

去る9月21日(水)、第50回理事会が都内にて開催された。今回は、助成対象の審議・決定が中心となり、研究助成や国際助成など併せて185件、総額4億5,184万円の助成を決定した。主な内容は以下の通り。

●研究助成は59件、2億70万円

本年度の申請数は783件。厳しい選考を経て、独創的な発想により新領域・新分野を開拓しようという意欲的な研究など59件が助成対象となった。今回から「高度技術社会への対応」と「多文化社会への対応」という2つの課題に重点を置くこととしたため、申請内容もこれらの課題に関するものが多く、選考結果もそれを強く反映することになった。(P.2~5参照)

●研究コンクールは本研究助成等10チームに2,800万円

“身近な環境をみつめよう”をテーマとする研究コンクールの第5回では、17の予備研究チームの中から6チームが「本研究」、4チームが「奨励研究」の助成対象に選ばれた。本研究チームには各々400万円の研究費が助成され、今後2ヶ年の研究を開始することとなった。(P.5~7参照)

●市民活動助成は8件、1,370万円

今年度から名称を改めてスタートした本助成(昨年度までは活動記録助成)については、「記録の作成」で4件、「記録の出版」で1件、新たに設けられた「活動交流促進プロジェクト」で3件のグループが助成対象となった。(P.7~8参照)

第14回助成金贈呈式

昭和63年度のトヨタ財団助成金贈呈式が、10月19日(水)午後1時30分より東京・新宿区内のホテルにおいて行われた。助成対象となられた方々や財団関係者など出席者多数のもと開会となった。豊田英二理事長の挨拶、各選考委員長による選考経過の報告の後、理事長より代表者に助成金贈呈書が手渡された。また、来賓として、総理府・内閣総理大臣官房管理室長・文田久雄氏よりご挨拶をいただき、2時50分に閉会となった。

おもな内容

◆研究助成の選考を終えて……………	2
◆研究助成対象一覧……………	3~5
◆研究コンクール・本研究助成の選考を終えて…	5~6
◆研究コンクール助成対象一覧……………	6~7
◆市民活動助成の選考を終えて……………	7
◆市民活動助成対象一覧……………	7~8
◆国際助成・「隣プロ」等助成対象一覧……………	8~12
◆最近の報告書から、他……………	12

●国際助成は85件、1億1,835万円

東南アジア諸国などにおける各地の固有文化の保存と振興に関する(現地の人々による)研究や事業に重点を置いた当プログラムでは、85件が助成の対象となった。

この内、18件(合計・511万円)については、「インドネシア若手研究者奨励研究助成」の助成対象。

(P.8~11参照)

●「隣人をよく知ろう」プログラムは16件、4,954万円

翻訳出版促進助成につき、日本向け4件、東南アジア向け6件、東南アジア相互間6件が各々助成の対象となった。

(P.11~12参照)

●東南アジア研究英訳刊行助成は1件、1,455万円

国際助成活動の新たな方向性を探るための試行的な助成として昨年度より開始された本プログラムでは、「日本人による東南アジア研究成果の英訳刊行」が昨年度に引続き助成対象となった。

(P.12参照)

●その他

特別研究助成1件、フォーラム助成3件、民間助成活動促進助成2件、合計2,700万円が決定した。





1988年度研究助成の 選考を終えて

研究助成選考委員長 飯島宗一

この6月末から9月初旬にかけ、783件の申請を対象に選考を行い、59件2億70万円の研究を採択とし、理事会に推薦した。個々の推薦理由については、別に各委員で分担執筆し関係者にお配りしているが、ここでは委員会を代表して簡単に選考結果の概要について申し述べたい。

今回の研究助成の基本テーマは、従来どおり『新しい人間社会の探求』となっているが、本年度からはその中でも特に、「高度技術社会への対応」と「多文化社会への対応」という二つの課題に重点をおくこととした。その結果、申請の研究内容もこれらの課題、特に後者の課題に関するものが多く、採択結果もそれを強く反映することになった。

◆個人奨励（第Ⅰ種）研究について

新進の若手研究者を応援しようという個人奨励研究は、今回からは祖父江孝男副委員長と中堅の専門委員で構成する第Ⅰ種研究選考分科会で選考することになった。分科会での選考結果は本委員会に報告され、その了承を得た。

分科会では、将来の研究者の成長という観点を重視しながら、さまざまな論議を経て26件を選出した。申請数が357件であるから採択率は7.3%、14件に1件の割りになる。今年は東アジア、なかでも中国の研究者の申請が急増し、採択内訳にもそれが顕著に反映されている。26件中、中国（本土）が5件、台湾と韓国がそれぞれ1件で他の外国はなし、という結果である。分科会では、国別の上限やバランスを考慮しなくてもいいのかどうかといった議論も出たが、結局、今回は特に考慮しないことで進めた。

また、個人奨励研究であるから若手を優先するのは当然としながらも、奨励的な意味があれば必ずしも年齢にこだわら

ないとの方針で、50歳代の研究も採択した。これまでの助成の継続として申請されたものをどう扱うかも議論になった。結果は、より多くの人に助成のチャンスをとの考えから、新規のものを優先することになり、継続申請では、これまでの成果が特に高く評価された1件だけしか採択にならなかった。

◆試行・準備（第Ⅱ種）研究について

第Ⅱ種研究では、2度の委員会での長時間にわたる論議を経て、21件を採択した。ただしこの内1件は、第Ⅲ種での申請から移したものである。申請数はこの移行分を含めて383件であるから、採択率は5.5%、18件に1件となり、極めて厳しい選考であったといえよう。

ここでは、学際的・職際的・国際的な総合研究の試行・準備に助成するもので、次年度以降の発展の見通しが選考の一つの視点になる。試行・準備の段階とは言え、かなり入念に計画されたものが最後まで残ることになった。また、民間が助成するに相応しい課題が重視された。

「多文化社会」に関したものが多数を占めるためあって、国際共同研究が多くなっているのも特徴であり、採択されたもののうち15件が国際的な共同研究である。その相手国はアジア、ヨーロッパ、アメリカと広く分布するが、ここでも、中国・台湾・韓国・香港と東アジアが大きな位置を占めている。研究の主体性が外国側にあるような場合には、代表者が外国の研究者になっている。この点が、わが国の現況下では、民間助成の一つの特徴であり、利点であると言えるだろう。

◆総合（第Ⅲ種）研究について

第Ⅲ種研究では、44件の申請の中から12件が採択になった。採択率は27%と、他の研究種別と比べると高い値を示すが、内容的には最も厳しかった。これまでに第Ⅱ種研究の助成を受けたチームの継続申請を主な対象としているからである。（今年から重点課題に関するものは新規

の申請でも受け付けることにしたが、やはり助成を受けて一定期間の準備をじっくりと整えたものに



は及ばず、新規の採択は1件に限られた。継続申請の選考に当たっては、これまでの報告書を丹念に読ませていただき、重要な判断材料とした。また、昨年度助成に係わるものについては、この8月の経過報告会での発表内容も大いに参考になった。なお、今後の可能性を秘めながらも何らかの難点があつて今回惜しくも不採択になったものもいくつかあるが、これらはさらに検討を加えて、来年また申請いただければと思う。

◆おわりに

研究とはもともと非常に個性的なものであり、新しい創造への挑戦であるから、それを計画の段階で客観的に評価することは至難の技である。しかも、一定の専門分野に限ってその中で優劣をつけるならまだしも、当財団の研究助成のように広範な領域を対象として既存の専門分野や組織を越えるような研究をバックアップしようという場合には、その難しさは計り知れない。しかし予算を大中に越える申請が寄せられる限り、どれかを採択とし、どれかを不採択としなければならない。選考ということが欠かせなくなる。

今回から、この選考という困難な仕事を引き受けることになり、9名の選考委員と5名の専門委員の惜しみない協力により、どうにか無事、責務を果たすことができた。私達としては、出来る限りの論議を尽くしほぼ納得のいく結果に到達しえたと思っているが、あるいは大切な金の卵を見落としていることもあるかもしれない。そういう点があれば、人のやることの限界としてお許しいただきたい。



1988年度 研究助成対象一覧

個人奨励(第I種) 研究 [26件; 45,100千円]

注 研究題目末尾の継-2(3)(4)は、継続2(3)(4)回目を示す。
助成金額下の()は、助成期間を示す。無記入は1年間。

No.	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (千円)
1	経済発展と政府・産業資本の力関係：韓国と日本の自動車産業の比較研究	尹 淨 老	ハーバード大学社会学科	1,800
2	熱帯アジア山地植生 — 人間系の研究 — キナバル山, マレーシア・サバ州の例 —	北 山 兼 弘	ハワイ大学植物学科	1,900
3	ビルマ抗日闘争史の研究 — 英国・ビルマにおける一次資料の収集・調査を中心に —	根 本 敬	国際基督教大学比較文化研究科	1,900
4	非西欧世界にとって、西欧的視点・技術の魅力とは何か — 日本・中国・インドネシア・オーストラリアの透視図法的絵画を例に —	乾 淑 子	北海道東海大学教育開発研究センター	1,300
5	米国日系二世・三世に見られるアイデンティティの形成と変遷 — 強制収容補償運動がアイデンティティに及ぼした影響を中心に —	竹 沢 泰 子	ワシントン大学人類学部	1,800
6	近代化の過程における中国農村社会の変動 — 日本との比較 —	秦 兆 雄	東京大学総合文化研究科	1,600
7	近代中日教育の指導的知識人に関する比較研究 — 蔡元培と森有礼を中心に —	王 智 新	東京大学教育学部	1,800
8	日本におけるラオアジェ化学の受容とその展開におけるオランダの影響に関する研究 — シーボルト・コレクション調査を基礎として —	塚 原 東 吾	オランダ国立ライデン大学	1,900
9	長崎被爆豪州兵に関する歴史的事実の解明：極限状況における異民族間の人間関係の分析	田 中 利 幸	アデレード大学アジア研究センター	1,800
10	精神障害者の地域ケアに果たす家族の役割に関する実証的研究	大 島 巖	国立精神・神経センター精神保健研究所	1,800
11	中国に進出する日系企業の経営管理 — 異質文化の接触から融合変化を求めて —	陳 建 安	中国復旦大学世界経済研究所	1,600
12	ノルマン・シチリア王国の統治構造 — ラテン、イスラム、ビザンツ文化の接触・相互影響下の行政制度 —	高 山 博	エール大学歴史学部	1,900
13	経済計画の理念、実際とその行方 — 日本と中国の比較研究 —	李 志 東	京都大学経済学研究科	1,500
14	ケニアの自然保護区の外側に生息し、家畜と共存する大型肉食獣ヒョウの生態研究及びその家畜に対する影響の調査	水 谷 文 美	ケンブリッジ大学	2,000
15	アメリカの国際教育政策に関する調査研究 — 中南米のアメリカン・スクールを中心として —	江 原 裕 美	東京大学教育学研究科	1,600
16	ティモールの混血地域エリートのアイデンティティの変遷(1900年~1960年：日本軍政期とのかかわりに注目して)	白 石 和 也	コーネル大学人類学部	1,100
17	アマゾン河上流域インディオ諸族の医療文化の研究 — 伝統医療を基礎とした新しい医療システムの創出をめざして — (継-2)	武 井 秀 夫	東京大学総合文化研究科	2,000
18	電話の社会学的研究 — その社会的普及とコミュニケーション環境の変容 —	吉 見 俊 哉	東京大学新聞研究所	1,700
19	三世同居家族における思春期問題への家族療法的アプローチ	堀之内 高 久	横浜国立大学保健管理センター	1,800
20	地域の相互扶助による老人食事サービスの実態と拠点確保の研究 — 東京都区市町村を対象として —	野 村 知 子	東京大学工学研究科	1,100
21	北海道・静内、浦河地方のアイヌ文化とコタン衰亡史 ~ アイヌの老人たちが自ら語り実践する伝承の、映像記録による解明 ~	藤 本 昌 伸	㈱テレビマンユニオン	2,000
22	異文化の接点としての台湾における日本宗教の受容過程 — 天理教を中心に —	黄 智 慧	大阪大学人間科学研究科	1,800
23	中西和結合医学による新しく、予見性と有効性の高い精神医学建設の試み — 生理・心理・社会三水準に跨がる臨床実践と討論を通じて —	徐 志 偉	神戸大学医学部	1,700



No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (千円)
24	Bangladesh移民労働者の実証的研究 — 日本と西欧、中東への移動を中心に —	長谷安朗	一橋大学社会学研究科	2,000
25	昭和初期、沖縄県における方言札（方言罰札）の実態に関する研究 — 沖縄国語教育史研究序説 —	平山良明	沖縄県立那覇高等学校	1,900
26	“感情”のレベルで“日本人”になりうるか？ — 日本に長期滞在するアメリカ人の文化的アイデンティティについての研究 —	矢ヶ崎淳子	カリフォルニア大学人類学部	1,800

予備的（第II種）研究〔21件；56,700千円〕

27	多文化社会への華僑・華人の対応 — 日本・台湾における華僑学校卒業生の動向分析 —	杜国輝 他5名	横浜中華学院	2,600
28	熱帯及び温帯アジアの水田における農薬による害虫誘導多発生（リサージェンス）の要因比較	中筋房夫 他3名	岡山大学農学部	2,500
29	長崎原爆残留プルトニウムをトレーサーとして利用した環境汚染調査研究	工藤章 他5名	カナダ生化学・技術研究所	3,000
30	雲南少数民族の伝統的文化と経済・社会の近代化に関する日中共同研究 — とくに民族文化の観光産業化をめぐる —	大林太良 他9名	東京大学教養学部	3,000
31	近世農民家族の少子化と子育て意識の変容に関する心性史的研究 — 「間引き」慣行を手がかりに — (継-2)	太田素子 他5名	高知大学教育学部	2,700
32	日本の政府開発援助（ODA）が東南アジア社会に及ぼす諸影響についての実態調査	村井吉敬 他7名	上智大学外国語学部	2,800
33	インド干害対策の一つとしての“地下ダム”構想の予備的検討 — 日本との共同研究を通じて —	タミレディ・ベンカテスワラ・ラオ 他7名	インド国立地球物理学研究所	2,500
34	手話認識のための機械辞書構築に関する基礎検討	鎌田一雄 他3名	宇都宮大学工学部	2,800
35	下北半島出身者の職業的社会的な過程についての追跡調査研究 — 成人期発達研究の総合化をめざして：その準備と展望 —	細江達郎 他10名	岩手大学人文社会科学部	2,700
36	現代移民と文化葛藤 — ハワイに移住したサモア人の生活史研究 —	山本真鳥 他3名	法政大学経済学部	2,800
37	社会福祉施設—地域社会コンフリクト（紛争事態）の政治=社会的メカニズムと紛争の予防ならびに解決の方法に関する予備的研究	庄司洋子 他12名	日本社会事業大学	2,500
38	香港の法・政治的研究 — 多文化社会における法・政治秩序とその変容	藤倉皓一郎 他3名	東京大学法学部	3,000
39	人口の高齢化と社会・経済的变化の原因・結果関係に関する日韓比較研究 — 高齢者の保健・福祉システムの改善をめざして —	魯公均 他4名	韓国科学技術院	2,800
40	中国・西安市における都市景観の形成及び誘導に関する日中共同研究	大西國太郎 他9名	京都芸術短期大学	3,000
41	フィリピン、北部ルソン山岳地帯における伝統的政治システムを生かした地域自治建設過程の研究	大崎正治 他4名	国学院大学経済学部	2,800
42	途上国における生命科学技術の健全な普及と利用のための国際協力の方法に関する研究	中島泉 他15名	名古屋大学医学部	2,800
43	中国帰国者にみられた精神医学的問題に関する研究 — 治療と具体的援助についての職的研究 —	春田有二 他12名	兵庫県立精神保健センター	2,700
44	重金属環境汚染を経験した三地域集団（熊本、富山、長崎）での老化過程の追跡と健康管理に関する基礎的研究	斎藤寛 他5名	長崎大学医学部	3,000
45	近代日本における「経世済民」思想・運動の展開	テツオ・ナジタ 他1名	シカゴ大学歴史学部	2,600
46	アーミッシュのティーンエイジャー — 現代アメリカの高度技術社会に対応する17世紀の若者たち — (継-2)	松沢哲郎 他3名	京都大学霊長類研究所	2,800
47	占領下教育関係雑誌の書誌的調査研究 — 米国・メリーランド大学所蔵誌の目次総覧・検閲実態・解題 —	奥泉栄三郎 他2名	シカゴ大学図書館	1,300



総合（第Ⅲ種）研究〔12件；98,900千円〕

No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (千円)
48	満族を中心とする中国東北部の文化複合 — 満族文化の周辺諸民族に及ぼした影響 — (継-2)	金 連 絃 他6名	中部大学国際関係学部	7,200
49	動物の脳活動のゆらぎ特性から人間行動の原理を学ぶ(継-2)	山 本 光 璋 他11名	東北大学工学部	11,400 (2年)
50	韓国経済発展に関する歴史的研究 — 京畿道・忠清道地域の分析を通じて — (継-2)	中 村 哲 他14名	京都大学経済学部	12,000 (2年)
51	社会福祉施設における実践的福祉教育の研究(継-2)	山 本 たつ子 他7名	(福)天竜厚生会訓練センター	5,500 (2年)
52	漢独辞典と日独文例辞典のデータにもとづく日本語・外国語電子化辞書システムの構築(継-3)	江 沢 建之助 他9名	チュービンゲン大学ドイツ語学科	10,000 (2年)
53	タイ語および日本語一次史料に基づく日・タイ交渉史の基礎研究(継-2)	吉 川 利 治 他6名	大阪外国語大学外国語学部	9,200 (2年)
54	ペルー日系人社会の実態調査 — 20年後の変貌 — (継-2)	増 田 昭 三 他9名	勸民族学振興会	10,000
55	地域社会における在宅重症患者のターミナルケアを含めた組織的対応とそのあり方に関する研究(継-2)	西 三 郎 他11名	東京都立大学人文学部	4,700 (2年)
56	航空に関する INCIDENT REPORTING SYSTEM に関する総合的研究 — 航空機整備・検査をめぐる — (継-4)	宮 城 雅 子 他8名	航空法調査研究会	10,500
57	アジアに於ける近代建築に関する基礎研究 — 現存遺産調査②中国・台湾・韓国・マカオ・香港 — (継-2)	藤 森 照 信 他33名	東京大学生産技術研究所	10,300
58	ベトナムの環境における化学物質の挙動と人体への影響に関する国際共同研究	原 田 正 純 他8名	熊本大学医学部	5,300
59	韓国における失語症患者言語機能の診断・評価・治療法の開発研究	朴 惠 淑 他6名	韓国延世大学校医科大学附属病院言語治療室	2,800

研究助成合計

59 件

200,700

第5回研究コンクール

本研究助成の選考を終えて

選考委員長 小原 秀雄

激しい討論と慎重な審査の結果、本研究に挑戦された17のチームのうちから、6つの本研究チームと4つの奨励研究チームを選出することになった。ここで審査の経過と結果の概要について簡単にご報告しておきたい。

〔選考経過〕

8月26、27日の二日間にわたる熱のこもった報告会の直後、まず、口頭発表と本研究実施計画書をもとに審査を行った。各委員はそれぞれのチームについて評価し、その結果をもとに全チームについて

個別に意見を述べ合い、とりあえず仮のものとして採択・保留・不採択のチームに区分した。

それから約2週間後の9月12日、今度は改めて提出された予備研究報告書を基に、第2次審査をおこなった。保留になっていたものから採択候補を選び出すのが主な内容であったが、前回の審議で仮に採択や不採択となっていたものについても慎重に再検討し、変更の可否を確認した。こうして最終的に6チームを本研究助成の対象として選出する他、当初の予定にはなかった奨励研究助成というものもを設けて4チームをその対象とした。選考は、応募要項に掲げた基準を念頭に行ったが、結局はどれだけ多くの選考委員の心を捕えたかということが採否を分

けたと言えよう。アマチュア研究としての魅力、人の心を動かすような新鮮な魅力があったかどうか、



これに尽きたといってもよい。

〔6つの本研究助成チーム〕

本研究助成は、当初の応募要項では7～8件とアナウンスしていた。しかし委員会に納得して推せるものとしては、6件に限られた。このコンクールで目指している研究は、市民の研究とはいえ2年間で400万円程度を有効に使いこなすと



いうスケールのものである。それ相応のチームの力量や構想力が要求される。委員会では、この要求水準については妥協すべきでないということになった。

今回助成の対象となった6チーム（別表参照）は、一応それに相応しいと判断されたもので、これらは、市民と専門家の係わりという点でも大変よい関係を保っているように思われた。また、いずれも運動や実践活動と深く関わっているため、それだけに多くの問題点を抱えてはいるものの、研究の位置づけについても一応配慮されていた。うまく展開すれば、運動や実践活動に対して大変よい影響をもたらすように考えられる。

これらのチームは、2年後にその成果を再度競い合うことになる。それぞれの個性や特徴を一層発展させて、現在の計画からは思いもかけなかったような成果が出てくることを望みたい。

〔4つの奨励研究助成チーム〕

本研究助成の対象とするには少し無理があるものの、市民的な発想が大変魅力的、といったものが今回の計画にいくつかあった。これらについては、少なくとも予備研究で開拓した芽をもう少し育て

て花を咲かせてほしいという意見が強く、新たに奨励研究助成という項目を設けてさらに継続して応援することにした。

その対象となったのは4チーム（別表参照）である。これらのチームには、改めて計画書を検討・提出していただき、1年間の研究を進めてもらうことにした。これらの研究は、あるところまで行けばあとはむしろ実践や運動が課題といったものである。その基礎がためのための奨励という意味でもある。助成金は100万円とした。

〔採択にならなかったチームについて〕

17件中7件については、今回惜しくも採択に至らなかった。その理由は個々にさまざまであるが、敢えて共通して言えることがあるとすれば、それはこのコンクールの趣旨にあった研究活動の今後の展望が、今ひとつ明快に理解できなかったという点である。

予備研究に割かれたエネルギーは採択になったものより遥かに大きいと思われるものもいくつかあったし、成果のまとめ方にしてもしっかりしたものが多かった。それだけに、現在のチームでやるべきこと、あるいはやり得ることは殆どす

でにやっけてしまっているようで、これからの新しい展開が見えてこないのである。あるものはこれから先は本格的な専門研究として進めた方がいいし、あるものについては研究という枠に縛られないでダイナミックに運動を展開した方がいいように思えた。また、今後やるべきことがあるとしても、ある程度のことなら自前できると判断されたのである。

〔今後に向けて〕

最後に私が希望したいことは、今回の結果がどうであれ、この5ヶ月のさまざまな体験、それは日常生活の中で大変に多忙な体験であったと思うが、それがこれからの生き方に十分に生かされていく欲しいということである。他の研究チームとの出会い、選考委員との出会い、財団スタッフとの出会い、時には不愉快なことがあったかもしれないが、そういう出会いをも通じて、それぞれのチームの芽が、それぞれのやり方で育っていくことを望みたい。また、助成を受けられたチームには、これを苦痛の種とすることなく、楽しい研究を展開して頂きたい。そして、新しいスタイルの市民の研究といったものを実現して頂きたい。

第5回研究コンクール“身近な環境をみつめよう”助成対象一覧

〔本研究助成対象〕（6件；24,000千円・助成期間2年）

No.	研究テーマ（研究対象地域）	代表者名	研究グループ名	助成金額（千円）
1	汎用ポンプなどを利用した小水力利用システムの開発（静岡）	小池 浩一郎 他7名	水車むら会議	4,000
2	エンカウンター・スペース・プロジェクトを中心としたフィールド・ミュージアムの実現をめざして（山梨）	今泉 吉晴 他18名	都留市マリネモ協議会	4,000
3	大野盆地における水環境の研究（福井）	高井 修二郎 他29名	大野盆地地下水研究グループ	4,000
4	サンゴ礁文化圏の自然生活誌 ― 八重山・白保部落のイノ―と暮らし ―（沖縄）	東川平 正雄 他26名	魚垣の会	4,000
5	三番瀬の埋め立てを行なう事なく創出できる市民の親水空間を（千葉）	小笠尾 精一 他16名	三番瀬研究会	4,000
6	港町・函館における色彩文化の研究 ― 下見板のペンキ色彩の復元的考察を通して ―（北海道）	村岡 武司 他22名	函館の色彩文化を考える会	4,000

〔奨励研究助成対象〕（4件；4,000千円・助成期間1年）

7	富士北麓における牛乳パック再利用研究―福祉事業への研究実践―（山梨）	辻 沢 文 男 他24名	富士北麓紙パック再利用研究会	1,000
8	新宿区内における在宅福祉サービス向上のためのケアセントウ（ケア付公衆浴場）についての研究（東京）	石川 公也 他20名	新宿高齢者在宅サービス研究会	1,000
9	外来動物台湾リスは、何故鎌倉で分布を広げることが出来たのか（神奈川県）	木下 節子 他26名	古都鎌倉の自然研究会	1,000



No.	研究テーマ (研究対象地域)	代表者名	研究グループ名	助成金額 (千円)
10	「からむし」を通してみた植物と人間の共生～「手織」をめぐる人間集団のありかたから～ (福島)	菅家博昭 他13名	昭和村生活文化研究会	1,000
第5回研究コンクール・合計		10件		28,000

市民活動助成の選考を終えて

市民活動助成選考委員長
縫田 嘩子

●3つの内容から成る『市民活動助成』

現在、私たちの社会では、あらゆる分野で様々な形の市民による活動が行われておりますが、それらの中には独自の発想によるもので、新しい人間社会の“芽”となるような先見性のあるものが少なくありません。こうした活動の体験を共有の財産とし、その活動の輪を広げていくことは、新しい社会を創り出していく上で大きな意義があると思われれます。

この様な考えからトヨタ財団では、昭和59年度以来、様々な分野で先見性のある活動を続けてきたグループを対象に、その活動記録の「作成」と「出版」に対して助成を行って参りました。さらに本年度より、この「活動記録」以外に、市民活動全般につき、個々のグループが活動し易い環境条件整備に寄与し、活動の幅広い交流や促進を狙いとしたプロジェクト（「活動交流促進プロジェクト」）

に対しても計画的な助成を試行的に開始することとし、それに伴いプログラムの名称も『活動記録助成』から『市民活動助成』へと変更することとなりました。

●本年度の「記録の作成」について
さて、今回の「記録の作成」に関する申請につきましては、総数で26件でした。上記の助成計画の変更(従来の半分規模)に対し、これまで通り申請状況(40～50件程度)を想定した場合、いささか不安ではありましたが、結果はそれに見合う様な状況となりました。

申請全体に係わる特徴を概観しますと、①記録の対象となるグループの所在地では、都市が、また、②活動分野としては、福祉関係(障害者、老人、医療、健康)が多いことが注目されます。③活動歴については、比較的短いところが多く、この辺が今回の申請全体の“質”にも影響しているようにも考えられます。活動歴の短さが直接マイナスの評価に結びつくわけではありませんが、「記録」ということを前提とした場合、それに代わるユニークさや独創性が相当要求されるわけです。なお、焦点が定まらず、一体何を

記録したいのかが良く分からない申請も若干見られました。

選考委員会では、活動内容や活動歴、また、他のグループへ与えるインパクトや記録作成計画の具体性など、色々な観点から、個々の申請につき大変熱心な議論がなされました。そして、多くの委員の評価を得られた下記の4グループが結果として助成候補となったわけです。

今回惜しくも採択とならなかったグループにつきましては、今後、十分な活動体験の蓄積や活動内容の質や広がりを目指された上で、再度申請されますことを希望いたしております。

* * *

なお、「記録の出版」については、3件の申請がありましたが、審査の結果、今回は1件が助成候補となりました(他は継続審議中)。今年度分の申請は、12月一杯受付けておりますので、記録を完成されたグループには積極的に申請されることをおすすめいたします。

また、「活動交流促進プロジェクト」につきましては、3件の申請があり、検討の結果、全て助成候補となりました。

1988年度 市民活動助成・助成対象一覧

「記録の作成」(4件;6,700千円)

No.	テーマ	代表者	代表者所属	助成金額 (千円)
1	農村婦人との連携で地域の活性化をめざす都市主婦の活動に関する記録の作成	福永隆子 他11名	あかねグループ	1,600
2	財団法人松戸市おはなしキャラバンの活動に関する記録の作成	庄司正 他9名	勸松戸市おはなしキャラバン	1,800
3	障害者の生活環境改善の活動に関する記録の作成	大宰博邦 他15名	国際障害者年日本推進協議会	1,800
4	誕生日ありがとう運動の活動に関する記録の作成	藤本隆 他51名	誕生日ありがとう運動	1,500

「記録の出版」

5	寝屋川市民たすけあいの会の活動に関する記録の出版	上野谷加代子 他10名	寝屋川市民たすけあいの会	1,000
---	--------------------------	-------------	--------------	-------



「活動交流促進プロジェクト」(3件; 6,000千円)

No.	テマ	代表者	代表者所属	助成金額(千円)
6	市民活動に関するミニコミ紙・誌の実態調査とその収集 (第1年度)	丸山 尚 他6名	住民図書館	2,400
7	ネットワーカーをつなぐニュースレターの発行 (第1年度)	村上 良雄 他5名	ネットワーキング社会研究所	2,500
8	「Blueprint for a Green Planet」の翻訳・出版	飯田 岳美 他5名	「緑の惑星の青写真」翻訳グループ	1,100
市民活動助成・合計		8 件		13,700

1988年度国際助成対象一覧

インドネシア [18件; 179,000ドル]

注: プロジェクト名末尾の継-2(3)(4)(5)は、継続2(3)(4)(5)年目を示す。

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額(ドル)
1	スラウエシ南部の沿岸地域の社会(継-3)	ムフリス	ハサヌディン大学沿岸地域研究プロジェクト	28,000
2	スルック: ジャワのイスラム教徒の神秘詩(継-2)	シムフ	スナンカリジャガ・イスラム高等学院イスラム教義学部	5,700
3	ブル島の孤立した民族ワカホロ族とその世界(継-3)	ムス H.	パティムラ大学教員養成学部	5,800
4	バリの伝統医療関係員葉文獻に記された医療方法(継-2)	I. K. スウィジャ	グドンキルティヤ貝葉博物館	4,000
5	インドネシアの諸民族言語との関連におけるインドネシア語の利用と発達(継-2)	E. K. M. マシナンボウ	インドネシア大学文学部言語学科	20,500
6	リアウ地方の口承文学: 内陸部住民のニヤニパンジャン(継-2)	トゥナス E.	リアウ州立伝統文化会館	5,600
7	北アチェの工業開発にともなう周辺社会の文化変容(継-4)	ダヤン D.	シャクアラ大学社会科学研究開発センター	21,700
8	都市文化の勃興: 1900年から1915年のスラカルタ(継-2)	クントウィジョヨ	ガジャマダ大学歴史学科	15,000
9	西スマトラの歴史: 1908年の租税反乱 — その展開	ルスリ A.	(郷土史家)	9,800
10	ワリソゴ, ジャワ島最古の歴史文獻に描かれたジャワのイスラム教の祖たち	ワシット	ワリソゴ・イスラム高等学院研究センター	5,600
11	アチェの慣習法の編纂	ダルウィス A. S.	アチェ慣習法・文化研究所	17,200
12	地域の復権と発展における文官エリートと軍人エリートの統合の役割 — 西スマトラのケース, 1966年-1987年	サアフルディン B.	国立防衛大学	3,200
13	インドネシアにおける貧困の問題	ウィロプロト	A P I 財団	15,000
14	ミナンカバウにおける, 独立宣言からインドネシア共和国革命政府の反乱までの歴史	アリ A. N.	(作家)	9,400
15	スラカルタ地域のフォルステンランズ・タバコ栽培とブスキ地域のブスキ・タバコ栽培	スギヤント P.	ガジャマダ大学歴史学科	1,300
16	サムドラ・パサイの歴史: インドネシアの最初のイスラム王国, 1250年-1525年	T. イブラヒム A.	ガジャマダ大学文学部	2,500
17	ブキット族社会の社会構造: 社会変化に関する一考察	ヌリド H. R.	ランブン・マンクラット大学調査センター	4,700
18	動機づけと開発: 中部マルク東セラム沿岸社会についての研究	アブドゥール R. H.	パティムラ大学社会学科	4,000



ラオス〔6件; 52,100ドル〕

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
19	『貝葉文献の保存、記録、翻字、インヴェントリー作成、マイクロフィルム化に関するセミナー報告書』の出版(継-2)	カンベグ K.	芸術・文学研究所	4,700
20	民俗詩収集と出版	ボセンカム V.	社会科学研究所	7,800
21	貝葉文献のインヴェントリー作成	カンラニャ D.	文化省ヴァナシン雑誌	15,600
22	標準ラオ語辞書の編纂	トンカム O.	社会科学研究所	6,000
23	ラオス装飾芸術の出版	ブリダ S.	芸術・文学研究所	8,200
24	ラオス民話集の出版	キダン P.	芸術・文学研究所	9,800

マレーシア〔4件; 37,700ドル〕

25	東南アジアのアラブ人：歴史・社会学的研究(継-2)	オマール F.	マラヤ大学文学部歴史学科	11,200
26	『社会科学ジャーナル』の発行(継-6)	S. フシン A.	マレーシア社会科学会	10,500
27	サバ・サラワクの輸送についての歴史研究：1800年-1940年	A. カウル	マラヤ大学文学部歴史学科	4,200
28	マレー研究国際会議	ニック・サフィア H. K.	マラヤ大学文学部マレー研究学科	11,800

ネパール〔5件; 115,800ドル〕

29	中世ネパールの碑文研究(継-3)	D. ヴァジラチャルヤ	トリブヴァン大学ネパール・アジア研究センター	8,100
30	古典ネパール語辞書編纂(継-4)	P. B. カンサカール	ネパール語辞書委員会	17,400
31	ネパール文化百科事典(継-3)	K. K. B. シャー	トリブヴァン大学ネパール・アジア研究センター	46,700
32	ネパール諸語の古文書の保存と記録(継-5)	P. R. トウラダール	ネパール古文書保存記録委員会	30,000
33	カトマンズ盆地の美術品の写真インヴェントリー(継-4)	L. S. バンデル	ネパール王立アカデミー	13,600

フィリピン〔18件; 211,000ドル〕

34	パッシングの歴史：1572年-1987年(継-2)	C. テック	(郷土史家)	4,600
35	フィリピンのイスラム芸術と建築：土着と現代(継-2)	A. T. ティアムソン	フィリピン大学マニラ分校 教養学部社会科学科	24,900
36	マニラ社会史：1765年-1898年(継-2)	M. L. T. カマガイ	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部歴史学科	5,400
37	18世紀におけるフィリピン聖職者の起源(継-2)	L. P. R. サンチャゴ	メディカル・シティ病院	15,400
38	ヴィサヤ地方とミンダナオ地方のイエズス会派教会の歴史的研究：1581年-1768年、1859年-1921年(継-2)	R. B. ハヴェリャーナ	アテネオ・デ・マニラ大学 教養学部	16,900
39	北部フィリピン、パンガシナン州の政治・社会経済・文化史：1901年-1986年(継-4)	R. M. コルテス	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部歴史学科	3,100



No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
40	ネグロス・オクシデンタル州の社会・文化・経済史：1850年-1985年(継-4)	V. L. ゴンザガ	ラ・サル大学社会調査センター	5,800
41	アメリカ支配から現在に至るまでのネグロス・オリエンタル州の歴史(継-3)	C. A. ロドリゲス	シリマン大学歴史・政治学科	9,400
42	フィリピン諸語辞書(継-3)	E. コンスタンティーノ	フィリピン大学社会科学・哲学学部言語学科	43,800
43	マノボ族の叙事詩『ウラヒーガン』の記録、翻訳、編集、出版(継-2)	E. G. マキノ	シリマン大学研究センター	21,000
44	セブアノ文学選集：1801-1985年(継-3)	R. B. モハレス	サン・カルロス大学セブアノ研究センター	4,200
45	セブの植民地教会の歴史的研究 ― その建築および美術的特徴：1590年-1890年(継-3)	C. S. タマヨ	サン・カルロス大学セブアノ研究センター	9,200
46	イロンゴ文学とその背景	L. V. オショリス	(文化コンサルタント)	8,300
47	社会問題を扱うタガログ語の詩：1946年-1986年	V. S. イグナシオ	フィリピン大学クラーク空軍基地分校	4,700
48	サンボアングのチャバカノ語による民俗文学	O. B. クアルトクルス	西ミンダナオ州立大学研究センター	7,500
49	ブキドノン：1946年-1985年	M. M. ラオ	セントラル・ミンダナオ大学	4,000
50	ミンダナオ島のモスレムの法的権利の認知と振興：国家統一と開発の前提条件として	Z. S. レイエス	フィリピン大学法律生涯教育学科	15,400
51	バナハウ山の神話と儀礼：宗教伝説の構造と役割を世界観の指標としてとらえる研究	G. M. ベシガン	アテネオ・デ・マニラ大学英語学部	7,400

タイ [6件；113,900ドル]

52	北タイ、ビルマ・シャン州、インド・アッサム州のタイ語族の文化・社会比較研究(継-3)	シャラチャイ R.	チェンマイ大学社会科学部社会学・人類学科	22,500
53	バンニャサ・ジャータカの北タイ版の研究(継-3)	ピット A.	チェンマイ大学人文学部	12,300
54	タイのヤオ族と中国・広西のヤオ族の比較研究(継-2)	テラバン L. T.	チュラロンコン大学文学部言語研究所	14,200
55	中国・広西のチュアン族とタイの関係についての研究(継-2)	ブランニー K.	チュラロンコン大学文学部言語学科	7,500
56	グエン時代ヴェトナム社会・経済史の予備的研究(継-3)	ポーンベン H.	シンラバコン大学文学部歴史学科	30,600
57	ランナタイおよびシブソンバンナの歴史資料の編纂：1200年-1949年	M. R. ルチャヤ A.	チェンマイ大学芸術文化センター	26,800

ヴェトナム [10件；144,400ドル]

58	『ドンソン銅鼓』の編集と出版(継-2)	N. V. ハオ	考古学研究所	66,800
59	メコンデルタの人々とその文化的特徴(継-2)	N. C. ビン	ホーチミン市社会科学研究所	7,500
60	ヴェトナムの古代の町(継-2)	V. タオ	歴史研究所	6,700
61	ホアビン文化(継-2)	H. X. チン	考古学研究所	6,900



No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
62	ヴェトナムのタイヌン少数民族	B. V. ダン	民族学研究所	8,800
63	ヴェトナムの漢字およびノム文字による碑文研究	N. Q. ホン	漢字・ノム文字研究所	7,700
64	チャムの歴史と文化	N. C. ビン	ホーチーミン市社会科学研究所	8,700
65	『漢字およびノム文字文献の宝庫』第2巻の出版	P. フウ	社会科学出版局	9,300
66	ヴェトナム百科事典	P. N. クウォン	ヴェトナム社会科学委員会	13,200
67	紅河デルタの人々とその文化的特徴	V. T. ラップ	社会・経済・地理研究センター	8,800
国際助成・小計				67件 853,900
68 { 85	インドネシア若手研究者奨励研究助成 (対象一覧は省略)	18件		38,700
国際助成・合計				85件 892,600ドル(118,345,685円)

1988年度『隣人をよく知ろう』プログラム助成対象一覧

「翻訳出版促進助成」・日本向け〔4件; 10,200千円〕

No.	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額 (千円)
1	われらのレイナ川(フィリピン)	寺見元恵	段々社	1,880
2	民衆(フィリピン)	山本まつよ	めこん	3,440
3	夏の日の雨(ヴェトナム)	加藤栄	新宿書房	2,580
4	わが師たち — プサントレンの人々(インドネシア)	山本春樹 相馬幸男	井村文化事業社	2,300

「翻訳出版促進助成」・東南アジア向け〔6件; 187,100ドル(24,806,962円)〕

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
5	フィリピン向け『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト	F. S. ホセ	ソリダリティ財団 (フィリピン)	46,300
6	日本の社会科学・人文学書のラオ語への翻訳と出版(継-2)	ウサ S.	日本文学翻訳委員会 (ラオス)	5,900
7	マレーシア向け『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト(継-4)	アブ・バカール H.	学術振興財団 (マレーシア)	75,600
8	日本の産業、経済、経営に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版(継-4)	V. D. ルオック	世界経済研究所 (ヴェトナム)	29,000
9	日本の伝説、民話、文化史、社会科学の本のヴェトナム語への翻訳と出版(継-2)	P. フウ	社会科学出版局 (ヴェトナム)	25,500
10	日本の民話のラオ語への翻訳と出版	フンバン R.	芸術・文学研究所 (ラオス)	4,800



「翻訳出版促進助成」・東南アジア相互間〔6件；109,600ドル(14,537,038円)〕

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
11	東南アジア文学のジャーナル、“Tenggara”の出版	ムハマッド H. S.	学術振興財団 (マレーシア)	10,300
12	アジア11ヵ国におけるプラーヤ・アヌマーン・ラーチャトンに関する展示会とタイでの国際シンポジウム	スラック S.	サティアンコーセツト・ナー ガブラティブ財団 (タイ)	33,200
13	東南アジア相互間『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト	アスワズ M.	社会経済調査・教育・情報 研究所 (インドネシア)	28,300
14	ヴェトナム社会科学書の英訳に関するワークショップ	B. D. タン	季刊誌『ヴェトナム社会科 学』(ヴェトナム)	6,300
15	東南アジアの社会・経済発展に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版	N. M. ハン	アジア太平洋研究所 (ヴェトナム)	20,500
16	東南アジアの歴史、文学、伝統に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版	P. D. ズオン	東南アジア研究所 (ヴェトナム)	11,000

『隣人をよく知ろう』プログラム・合計

16 件

49,544,000円

東南アジア研究英訳刊行助成

1	東南アジア研究英訳刊行(継-2)	G. M. ケーヒン	コーネル大学東南アジアプ ログラム (アメリカ)	110,000 ドル
---	------------------	------------	-----------------------------	---------------

最近の報告書から

当財団の助成研究から、「成果発表助成」によって印刷された報告書を紹介します。入手ご希望の方は、送料分の切手を同封の上、財団レポート係宛てお申し込みを。(品切れの際はご容赦下さい)

III-007-1,2 華僑学校教育の国際比較研究〔上・下〕(華僑学校国際比較研究会代表・市川信愛 B5 上196頁, 下120頁 和文・中文。送料 300円)

この報告書は、3年余にわたる日台、日中共同研究の成果をまとめたものである。上巻には、日本と東南アジア諸国の華僑学校教育の概要と沿革を始め、日本の華僑学校在校生(主に中・高生徒)の生活意識調査と台湾政治大学におけるマレーシア、韓国、香港の華僑子弟の実態調査の結果が収録されている。下巻には、中国における華僑学校教育の概要・沿革とともに、福建省の華僑大学に在籍する香港、マカオ、モンゴル等からの華僑学

生の実態調査結果が収録されている。多文化教育という、とらえにくい問題についての貴重な情報を提供してくれる。

お知らせ

当財団では、昨年度の研究助成対象・第Ⅲ種(総合)研究に関する研究報告会および第4回研究コンクール・本研究チームによる最終研究報告会をそれぞれ下記の通り実施する予定です。ご関心おありの方は、研究助成部門までお問合せを。

* 研究助成・第Ⅲ種研究報告会

11月11日(金)・12日(土)

* 第4回研究コンクール最終研究報告会

11月30日(水)

なお、場所はいずれも国際文化会館・講堂(東京・六本木)の予定です。

編集後記

▶助成対象になられた皆様、おめでとうございます! いずれも選考という厳しいスクリーニングを経てきているだけに、独創的な発想や計画内容の迫力には目を見はるものがあります。

▶にもかかわらず、“当たった”という程度の意識しかお持ちでない向きが若干いらっしゃるようで残念なことです。

▶“富クジ”並の高倍率であることは確かですが、ここはあくまで実力勝負。

一定水準の計画内容はもとより、「だから、どうした?」という基本的な問題意識も強く問われるキビシイ世界。

▶自分の選ばれた陰には、多数の選外者がおられることを夢々お忘れなく!

トヨタ財団レポート No.46

このレポートを継続してご希望の方は、お葉書にて財団宛てお申し込みください。

発行日 1988年10月31日

発行所 財団法人トヨタ財団

発行者 山口日出夫

編集者 渡辺 元

印刷 真友工芸株式会社